

2.希望進路への具体的な準備

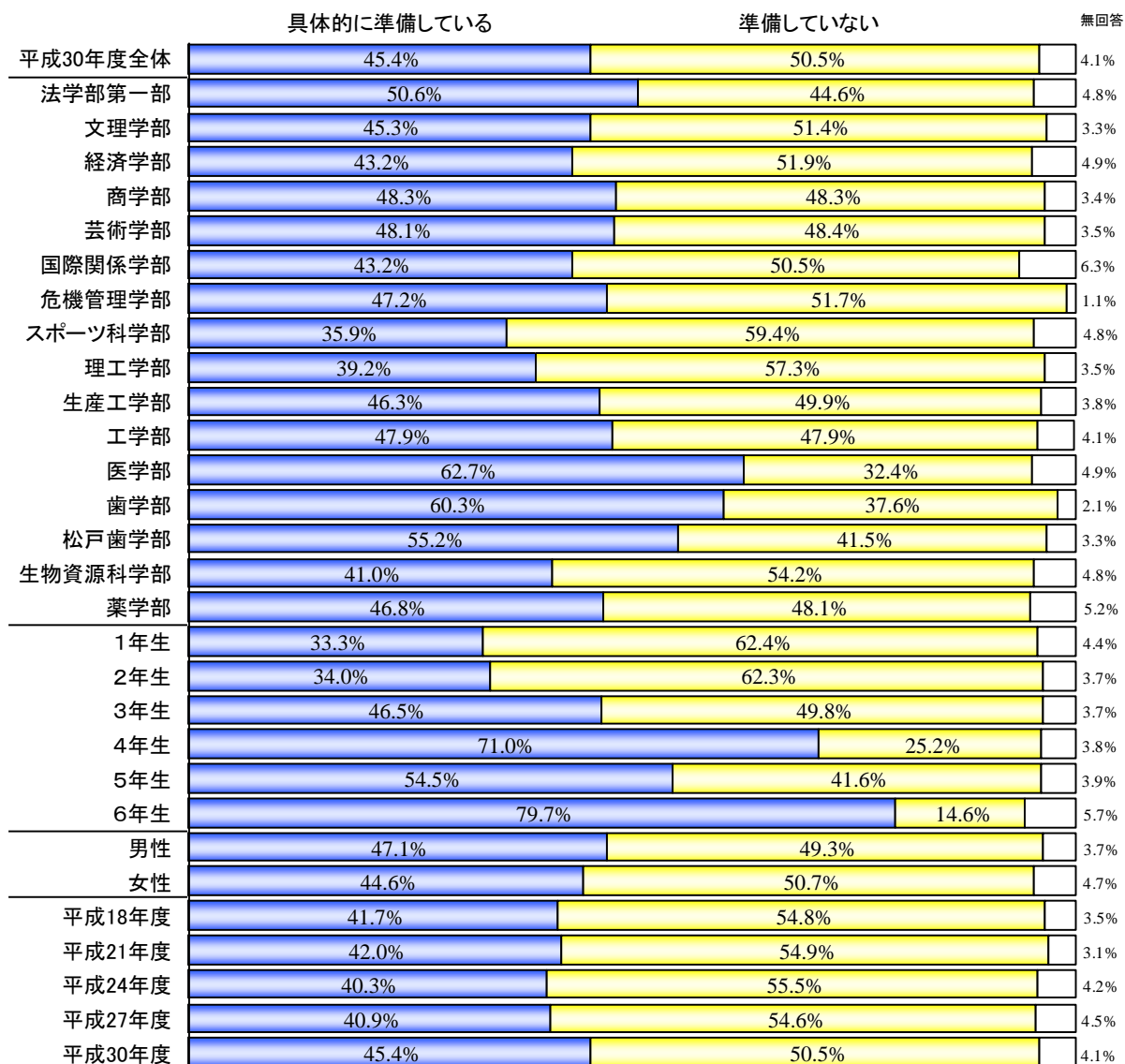
希望している進路について「具体的な準備」をしている学生は全体の45.4%。
ほとんどの学部で3年前より増。就職支援体制強化の取り組みが後押し？

本調査が実施された平成30年6月時点で希望している進路についての準備の有無を全体で見ると、「具体的に準備している」学生は45.4%となっています。

学部別に見ると、「具体的に準備している」学生は医歯系学部で高く（60%前後）なっています。スポーツ科学部・危機管理学部は平成28年度創設のため3年生までですが、危機管理学部では47.2%が「準備している」と全体より高くなっています。「具体的に準備をしている」学生を学年別に見ると、卒業年次の4年生で71.0%、6年生（医歯薬系学部・生物資源科学部獣医学科）で79.7%となっています。

平成18年度からの経年変化を見ると、6月時点で「具体的に準備している」学生の比率はほとんど横這い傾向でしたが、平成30年度は3年前より4.5ポイント増加しています（商学部で13.3ポイント増、生産工学部で7.0ポイント増、工学部で6.2ポイント増など松戸歯学部を除く13学部で増加）本学の「低学年次からの就職支援体制強化」の取り組みの効果が表れているのかもしれません。

図8-2 希望進路への具体的な準備の有無(平成30年度全体・学部別・経年変化)



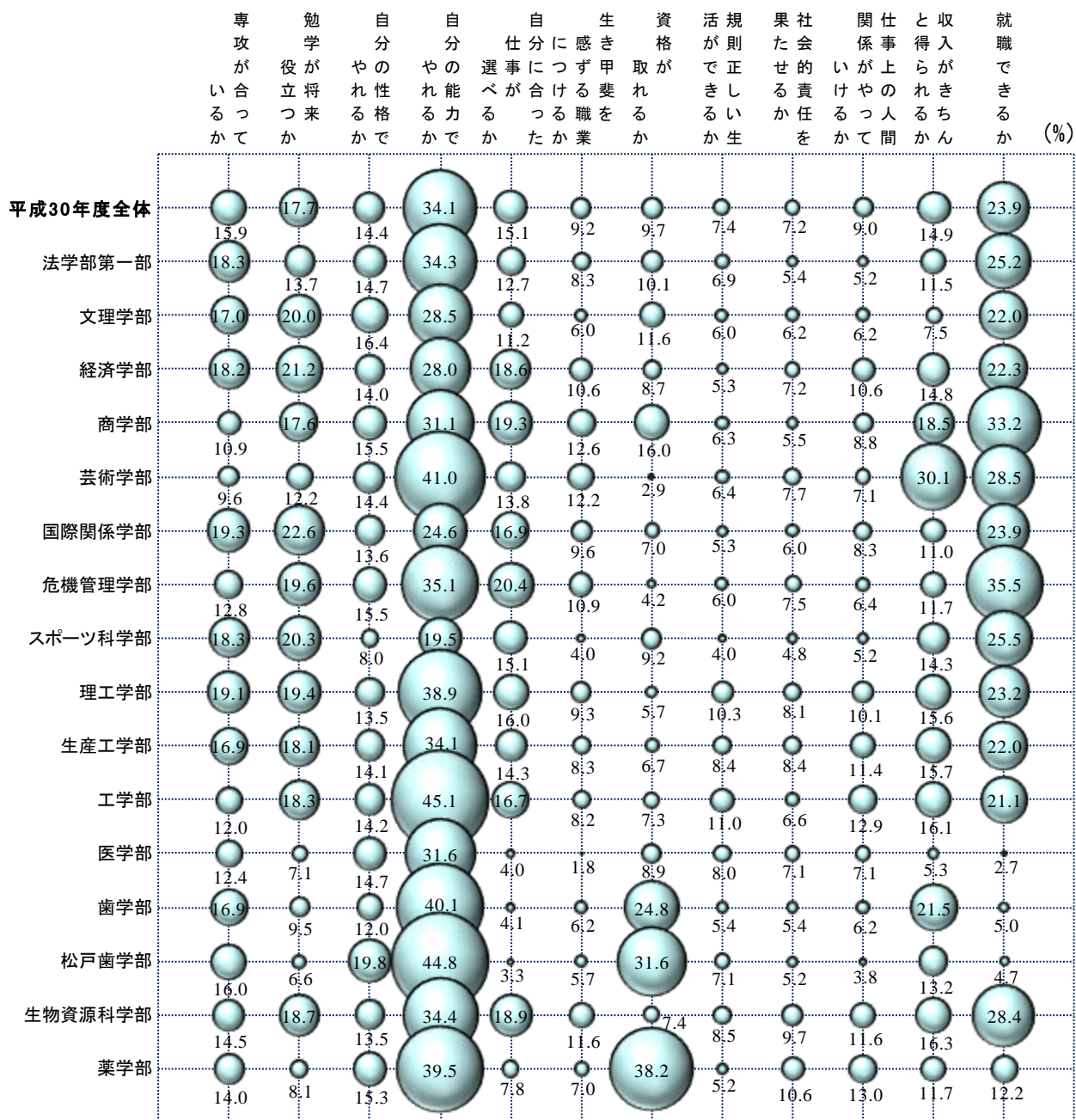
3.将来についての不安

学生が感じている将来の不安は「自分の能力」と「就職できるか」が多い。「能力」の不安は工学部・歯学系学部等、「就職」は危機管理学部・商学部で高め。

学生が感じている将来の不安を平成30年度全体で見ると、「自分の能力でやれるか」(34.1%)と「就職できるか」(23.9%)の比率が高く、「勉学が将来役立つか」「専攻が合っているか」「自分に合った仕事を選べるか」「自分の性格でやれるか」「収入がきちんと得られるか」が15%前後で上位にきています。

学部別に見ると「能力」についての不安は工学部・歯学系学部・芸術学部で高く(各40%台)、「就職できるか」は危機管理学部・商学部で高め(各35.5%、33.2%)、歯学系学部・薬学部では「資格が取れるか」も他の学部比べて高くなっています(24.8%~38.2%)。

図8-3 将来についての不安(平成30年度全体・学部別)



4. 将来についての不安—今回上位8項目の経年変化

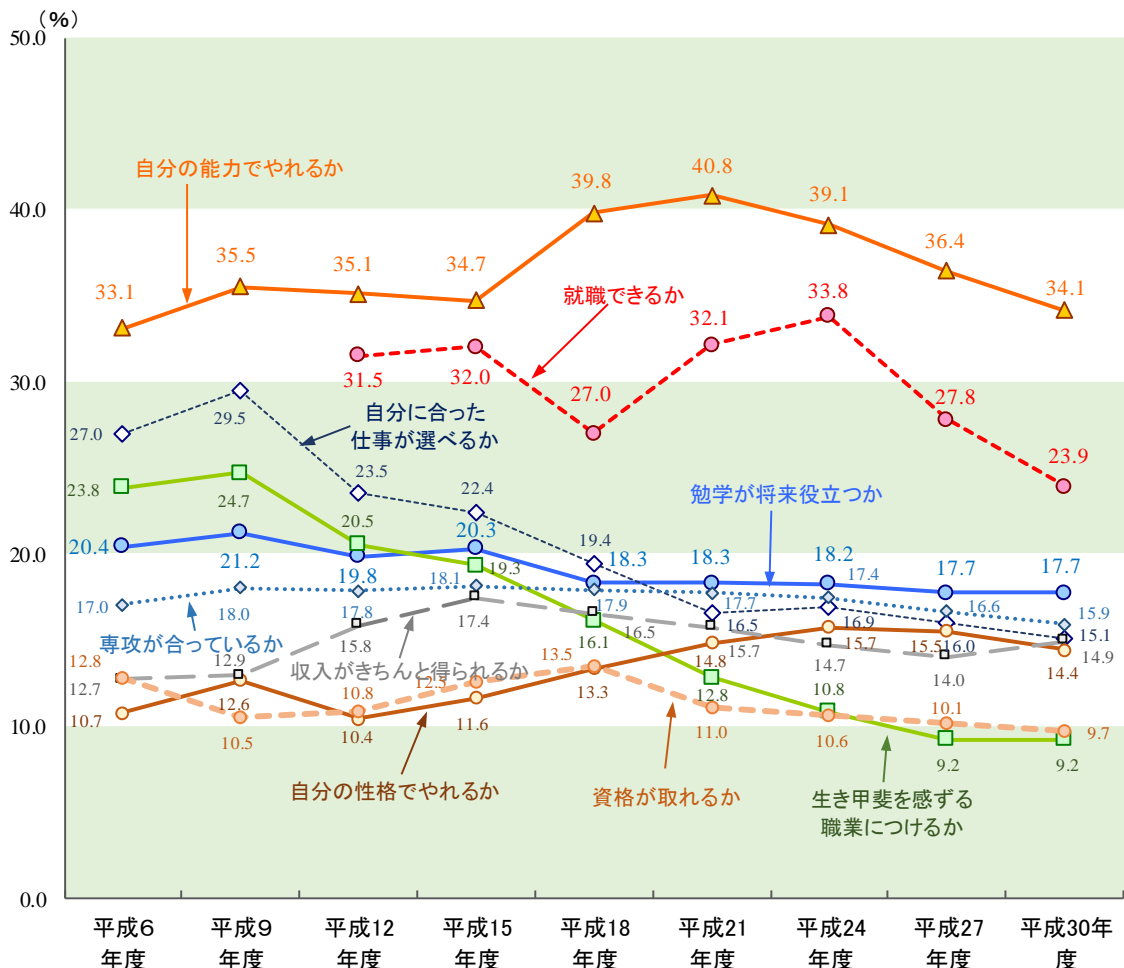
「自分の能力」「就職できるか」といった不安が減少傾向。学部によって増減に差。文理学部で能力・就職の不安減少大，歯学系学部で「資格が取れるか」の不安増大傾向。

学生が感じている将来の不安のうち上位8項目までの経年変化を平成6年度から見ると、「自分の能力でやっつけられるか」という不安が毎回トップとなっています。この不安は、平成15年度からの6年間で6.1ポイント増加しましたが、9年前から減少傾向にあります。この間の減少幅が大きい学部は国際関係学部・薬学部・文理学部で、12ポイント以上減少しています。

「就職できるか」という不安は平成18年度から増加傾向にありましたが減少に転じ、直近の6年間で9.9ポイント減少しています。この間の減少幅が大きい学部は文理学部・法学部第一部・工学部で17ポイント以上減少しています。また、「自分に合った仕事を選べるか」及び「生き甲斐を感じる職業につけるか」という不安は、共に平成9年度以降漸減傾向が続いています。この傾向は文理学部・国際関係学部で強く見られます。

一方、「資格が取れるか」という不安は学生全体で見るとあまり高く、10%前後で推移していますが、学部別に平成9年度から21年間の変化を見ると、歯学部で19.6ポイント増、松戸歯学部で15.7ポイント増となっており、不安度が増していることが分かります。近年の、歯科医師過剰問題に伴う歯科医師国家試験合格率抑制政策などの影響が表れているようです。

図8-4 将来についての不安(平成30年度上位9項目の経年変化・全体)



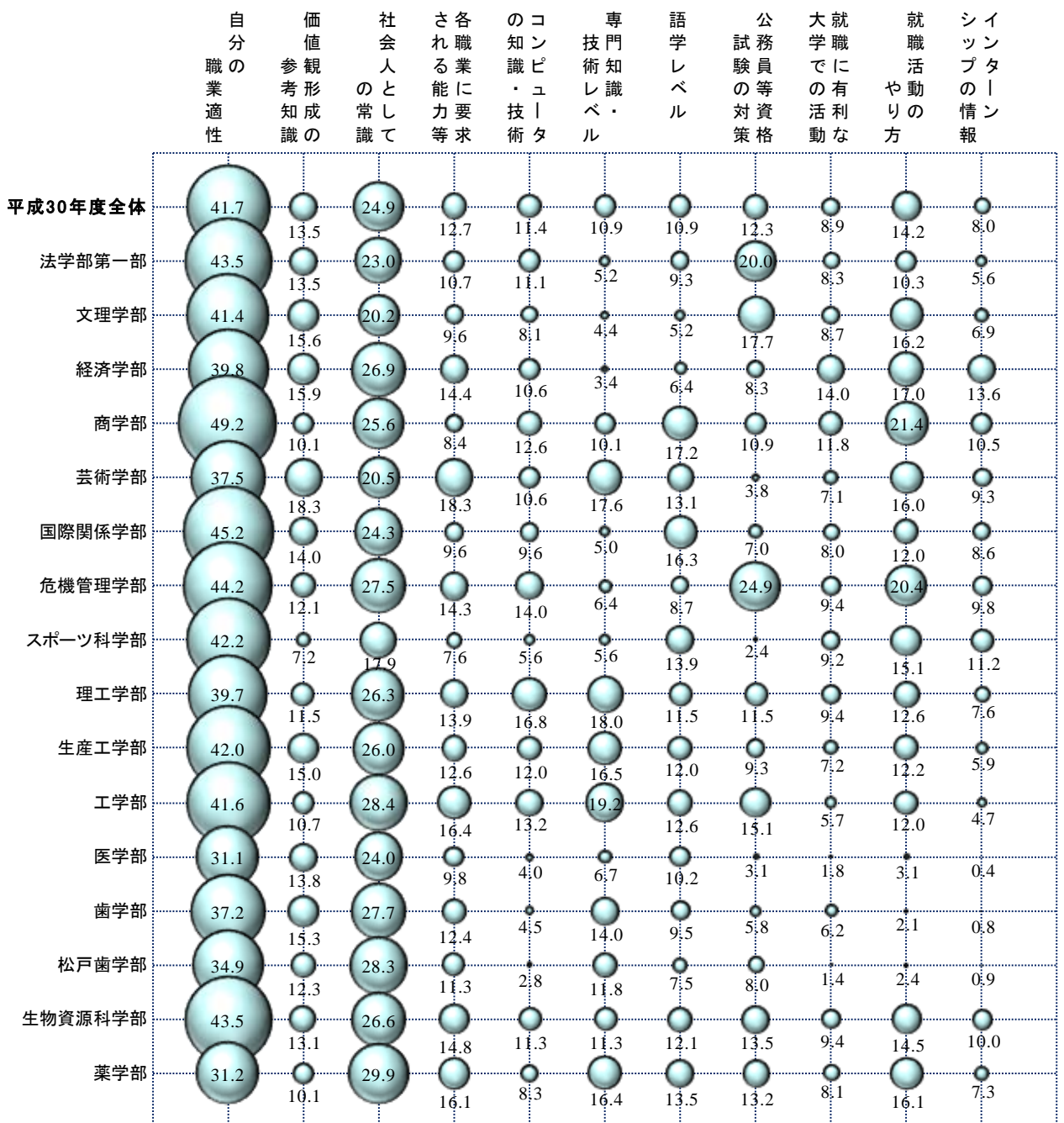
5.進路に関する知りたい情報・知識

卒業後の進路に関する知りたい情報・知識は「自分の職業適性」と「社会人としての常識」。
 危機管理学部では「資格試験対策」「就職活動のやり方」も。
 理工系学部等では「専門知識・技術レベル」も。

卒業後の進路に関する知りたい情報・知識を見ると、全学部で「自分の職業適性」の比率が最も高く（平成30年度全体では41.7%）、「社会人としての常識」（同24.9%）が続いています。

学部別に見ると、法学部第一部では「公務員等資格試験の対策」、商学部では「就職活動のやり方」、危機管理学部では「公務員等資格試験の対策」と「就職活動のやり方」、理工系学部と芸術学部では「専門知識・技術レベル」が他の学部比べて高くなっています。

図8-5 進路に関する知りたい情報・知識（平成30年度全体・学部別）



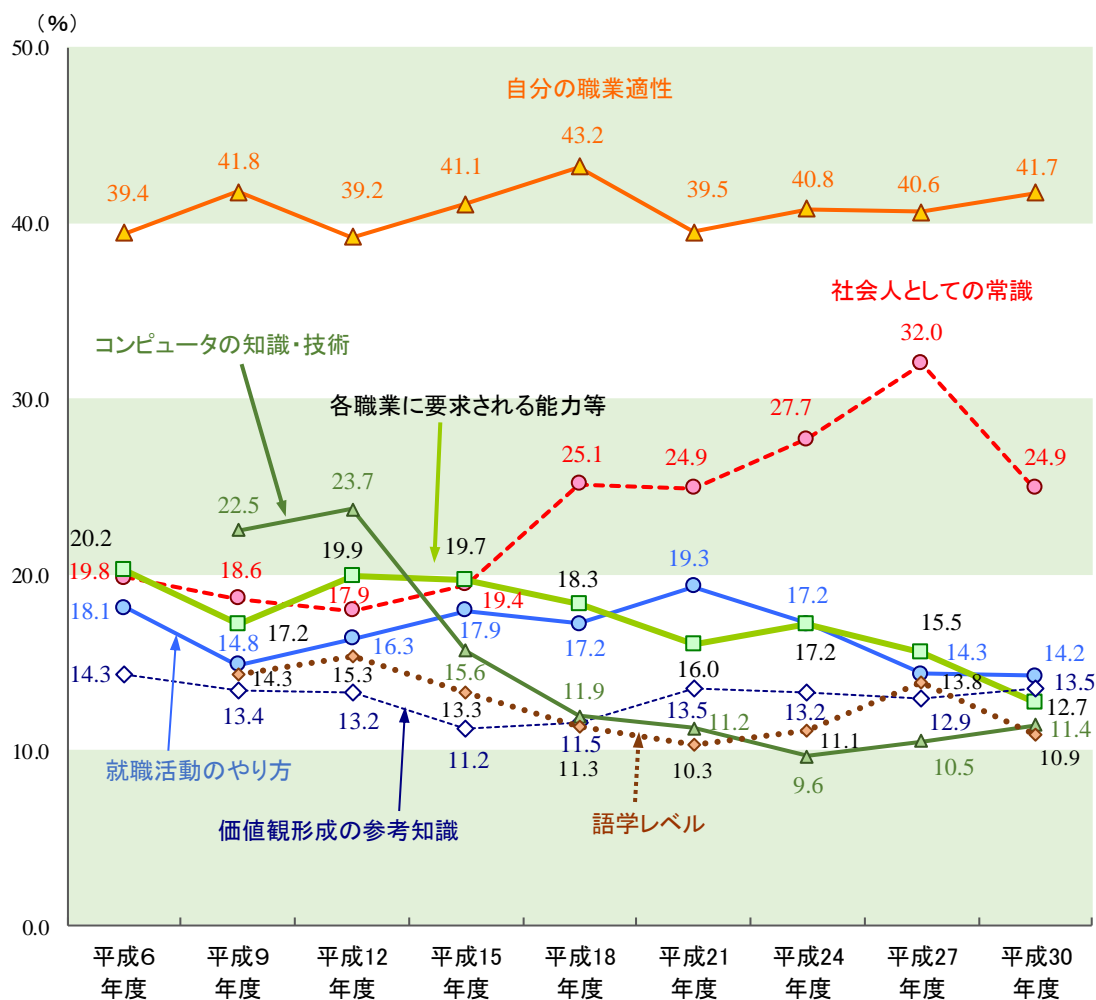
6. 進路に関する知りたい情報・知識の経年変化

卒業後の進路に関する知りたい情報・知識は、「自分の職業適性」トップが継続。「就職活動のやり方」は12学部で減少傾向。支援プログラムの成果の表れか。

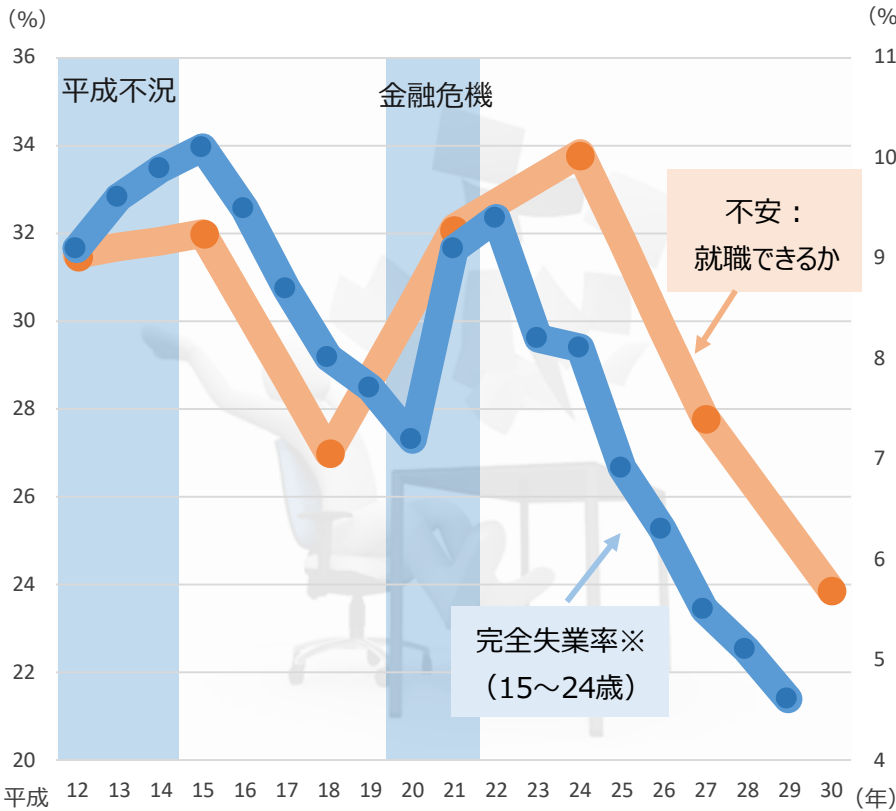
この項目が調査に含まれた平成6年度からの経年変化を見ると、「自分の職業適性」が毎回トップとなっており、概ね40%の水準で推移しています。「社会人としての常識」は、平成12年度の17.9%から漸増傾向にあり、平成27年度までの15年間で14.1ポイント増となっていました。平成30年度は3年前より7.1ポイント減と、減少に転じています。一方、「各職業に要求される能力等」は平成12年度の19.9%から概ね漸減傾向にあり、平成30年度までの18年間で7.2ポイント減となっています。また、「就職活動のやり方」は平成21年度の19.3%から9年間で5.1ポイント減少し、1年生から実施している就職（キャリア）支援プログラムの成果が表れているものと思われます。

学部別に「就職活動のやり方」の同期間の変化を見ると、工学部で10.6ポイント減、法学部第一部・芸術学部・経済学部で8ポイント台減など商学部・松戸歯学部を除く12学部で減少しており、支援プログラムの成果はほぼ全体に及んでいるようです。

図8-6 進路に関する知りたい情報・知識の経年変化(全体)



社会動向と学生の意識



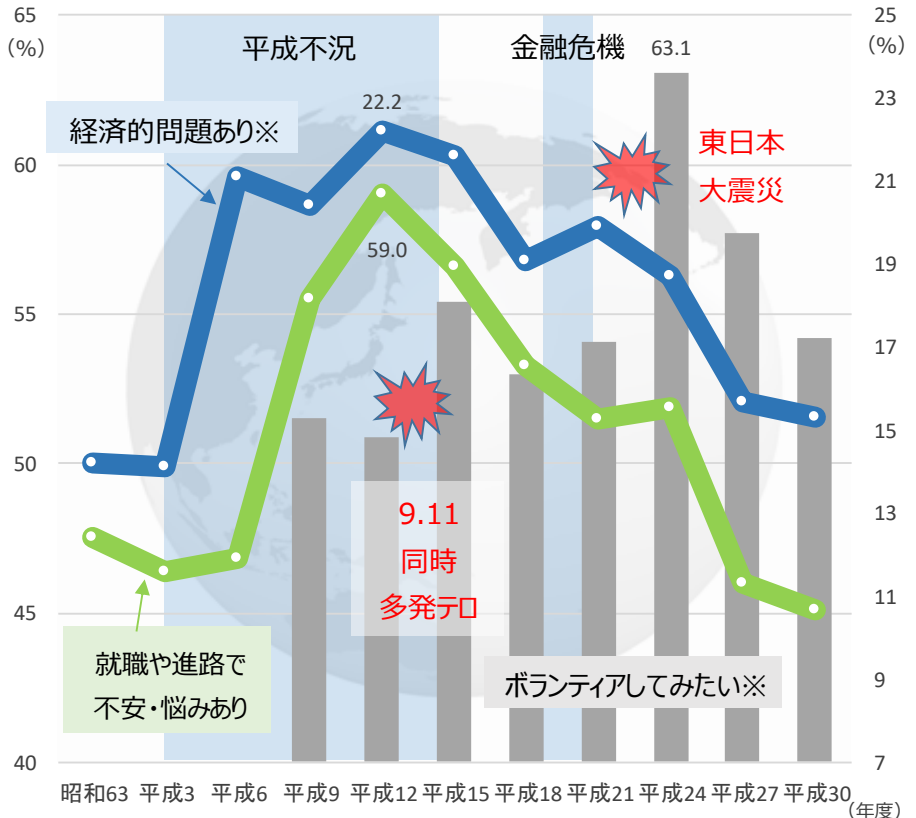
左のグラフは、学生たちの将来の不安について、「就職できるか」という不安（3年毎調査）と、国内の完全失業率（年平均；15～24歳）のデータを比較したものです（64歳までの全労働人口における失業率も若年層失業率と同様の傾向）。一般的に「平成不況」「金融危機」と呼ばれる期間は、失業率が上昇し、その後の経済状況の回復に伴って下降しています。グラフを見ると、失業率の変動に引っ張られるように、少し遅れて上下動していることがわかります。社会の動向が学生の意識に大きく影響していることが調査結果に映し出されています。

◆失業率データ：総務省「労働力調査」より作成。「不安：就職できるか」は将来についての不安の調査項目より抽出。

さらに、当調査が開始された昭和63年度からのデータを見てみましょう。

「平成不況」と言われる平成3年から平成14年までの期間には、「就職や進路で不安・悩みあり」、「経済的問題あり」と回答した学生の比率が急増しています（平成3年度はそれぞれ46.4%、14.1%からピークの平成12年度には59%、22.2%へ上昇）。

世界や日本で起こる出来事は、学生たちのボランティア精神にも影響しているようです。特に、2011年（平成23年）3月に発生した東日本大震災後の調査では、震災前の54.1%から9ポイント増の63.1%もの学生が「ボランティア活動を今後してみたい」と回答しています。



※の項目は右目盛り、その他は左目盛り（両グラフとも）

◆「就職や進路で不安・悩みあり」「経済的問題あり」は、不安・悩み・問題の種類別の調査項目より、「ボランティアしてみたい」は入学から現在までの意識・行動の調査項目より抽出。